

官民連携による文教施設・子育て教育環境等整備 における実現可能性調査(サウンディング)を実施します！

概要

北川村では、「北川村子育て教育ビジョン」において、15歳までに育ててほしい子どもの姿を「ふるさとへの愛着と誇りを持ち学ぶ意欲にあふれ、未来を切り拓く社会性豊かな子ども」と決めました。（【別紙6】参照。）



その取り組みの1つとして、保幼小中の一体的な取組を実現するために「15年間の一貫した教育で誰ひとり取り残されず学ぶことができる魅力的な環境を創る」ことを目標に掲げています。そのために、保幼小中の単純な施設の統合ではなく、より多様な施設を併設する**複合化**を検討しています。さらに、より良い教育環境を実現するために、ハード施設だけではなく、ソフト面である**官民連携による教育サービスの充実化**も含めて、今年度中の基本計画の策定を目指して総合的に検討をしています。

今後の事業展開に活かすために、民間事業者の皆様からの意見や視点、様々な教育サービスの内容、事業構築をする上での課題などをお聞かせいただく**サウンディング**を実施します。ぜひ、民間事業者様のご意見をお聞かせください。

本サウンディングの連絡先

株式会社GPMO 官民連携事業グループ
担当：湯川、天米
電話：0877-85-8203
E-mail：yyukawa@gpmo.jp

関連情報の入手先

北川村 子育て教育ビジョン 
▲これまでの検討過程をHP上で公表しています。
北川村 サウンディング 
▲詳しくは北川村ホームページをご覧ください。

北川村プロフィール

人口：1,232人（2021年7月末現在）
主産業は、「ゆず」を中心とした農業、日本唯一の「モネの庭」マルモッタンなどによる観光産業です。



本サウンディングで意見交換をしたい考え方と内容(イメージ)！

①文教施設・子育て教育環境等整備の方向性について

【北川村の考え方】

北川村では、保育所、幼稚園、小学校、中学校を複合化し、図書館的な機能を持った空間や広場・公園機能を持った空間、トレーニングルーム、サテライトオフィスなども併設する可能性を探っています。また、北川村では「千人の家族が子どもを育む ゆず王国北川村」を目指すべき村の姿にしており、地域ぐるみの教育のあり方も検討しています。各施設が単純に場所ごとに配置されている「足す複合化」ではなく、各施設が連携できる「混ぜる複合化」を検討しています。

▼イメージ図

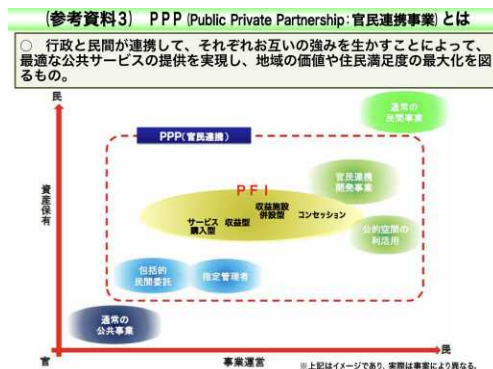


②本整備における官民連携の可能性について (ハード面)

【北川村の考え方】

本整備を進めるにあたり、整備手法について検討を進めています。従来方式、PFI方式、リース方式など様々な官民連携手法を検討していきますので、①における整備の方向性に合致した最適な手法について検討していきます。

イメージ図▶



出所：内閣府HP

③北川村で展開できる教育サービスについて (ソフト面)

【北川村の考え方】

北川村では、化粧品会社と連携した特産品である「ゆず」に関する学習や食品EC会社と連携した食育など民間事業者様との連携による教育環境の充実を進めてきました。今後、学校内外においてより充実した教育サービスを提供するために、教育サービス分野における官民連携の可能性を検討していきます。

▼化粧品会社との連携 (ゆず学習)



▼食品EC会社との連携 (食育)

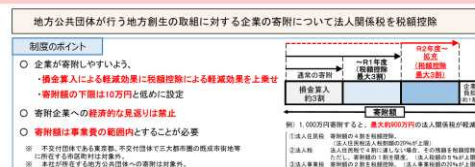


④多様な官民連携を実施する上での資金調達について

【北川村の考え方】

今後、文教施設・子育て教育環境等整備及び教育サービスの充実化を進める上で、資金調達について幅広く検討しています。企業版ふるさと納税やその他多様な資金調達方法について検討していきます。

企業版ふるさと納税



▲企業版ふるさと納税 (出所：内閣府HP)

【寄付額と村との連携案の例】

- **100万円 (実質負担額10万円)**
北川村広報誌での会社名掲載と感謝状進呈、会社で開発する新商品や新サービスを保育園から中学校までの授業等で優先的にモニター体験して商品やサービスの開発に活かせる権利
- **1,000万円 (実質負担額100万円)**
北川村広報誌での会社名掲載と感謝状進呈、学校に会社名が入った記念碑を設置、併設予定のシェアオフィスの優先使用権(使用料等諸経費は発生します)